

明智光秀

は、善政をしめた良君だつた。

「本能寺の変」の首謀者



明智光秀と福知山城

福知山城は、天正7年（1579）頃、丹波を平定した明智光秀によつて西国攻略に向けた拠点のひとつとして築かれました。光秀は、それまで横山城とよばれていた簡素な搖籃城です。光秀は、これまで横山城とよばれていた簡素な搖籃城を擴充整備し、福智山城と改めました。以来、戦乱の時代にあつて、城主が交代する中、順次整備が進められ、慶

長5年（1600）頃に近世城郭として完成しました。丹波の山々に囲まれた盆地の中央にあり、背後を流れる由良川やその支流を天然の堀とし、丘陵を巧みに利用した要害であつたと伝わっています。天守閣は、初期望楼型とよばれる古い様式で、内部も初期天守の特徴を持っています。明治6年（1873）の廢城令により石垣と一部の遺構を除き大部分が取り壊されましたが、昭和61年（1986）に、市民の瓦一枚運動などにより天守閣が復元されました。

光秀の正室・熙子 ひろこ 困窮していた浪人時代、来客をもてなすため、熙子は自身の黒髪を売りおに換え、光秀の面目を保ったといわれています。その献身的な姿を、松芭蕉は「月さびよ 明智が妻の 呟しせむ」と詠んでいます。多くの苦を二人で乗り越え、夫を支え続けた熙子を、光秀もまた生涯をかけてし続け、側室を持つことはなかったそうです。

光秀と熙子の三女・玉とて生まれました。織田信したが、父・光秀が起こし、夫・忠興の手で「逆臣」になりました。秀吉の許して救いを求め、「ガラシャ」實際では、石田三成の人屋を閉じました。

光秀の盟友・細川幽斎(藤孝) 光秀の盟友で、同じ時期に將軍家に見え、ともに信長の配下となり、光秀は丹波を、幽斎は丹後を平定しました。ともに戦い続けたもっとも近しい二人でしたが、「本能寺の変」では川家を守るために、光秀からの誘いを拒絶して出家しました。その決断、光秀の敗北を決定づけるものでした。武芸にも文化にも優れ、和歌の技「古今伝授」を受け継ぐほどの人物であったといわれています。

所在地：京都府福知山市字内記
築城者：明智光秀
別 称：臥龍城（がりゆうじょう）
築城年：天正7年（1579）頃
天守復元：昭和61年（1986）
形 式：平山城
遺 構：石垣、銅門番所など

開館時間：午前9時～午後5時
休館日：毎週火曜日
入館料：おとな320円
電 話：0773-23-9564



明智光秀

主君・織田信長の命を受け、天正7年(1579)頃、丹波を平定した明智光秀。その丹波攻略では、波多野氏や赤井氏の激しい抵抗にあい、苦戦を強いられました。一度は敗退した光秀ですが、二度目の攻略の際には、智略をつくし、5年にも及ぶ壮絶な戦いを経てついに丹波を平定しました。その功績は、信長にも大いに称えられ、「丹波国日向守働き、天下の面目をほどこし候」と名指しで賞賛されるほどでした。

其の二 名君として慕われ、領民に愛された
統治者としての手腕

城下町整備 福知山城下は、
ゆらがわはせがわ
由良川と土師川

が合流する地点で、たびたび氾濫を起こしていました。光秀は、城下町の建設に伴い、現在の福知山駅付近まで蛇行していたと推定される由良川に堤防を築いて北向に固定し、堤防の前面には衝撃を和らげるための數を設けたと伝わっています。かつて蛇ヶ端御藪と呼ばれたその藪は、今では「明智藪」として親しまれています。



地子錢の免除 西国への要衝となる福知山を発展させたため、光秀は地子錢(宅地税)を免除しました。また楽市楽座を設けるなど経済発展に力を入れました。現在に至る福知山の発展の基礎を築いた人物として、光秀は今でも福知山市民に慕われています。

其の三 日本史上最大の謎 本能寺の変

天正10年(1582)6月2日、京都・桂川を渡った光秀は、「敵は本能寺にあり」と号して本能寺に兵を向け主君・織田信長を討ちます。その真相は現在でも明らかになつていませんが、当時は「下剋上」の時代。光秀もその渦中にあり、主君信長への忠誠と反感の狭間で苦しみ、悩んだと思われます。その深さが、様々な説につながっているのかも知れません。

家中軍法 御靈神
社に所蔵

されている「家中軍法」。これは、光秀が定めたとされる、軍団の規律や軍役の基準を記した全18条からなる軍法です。軍の管理・統制を目的としたルールは、当時の織田家中にはまだ存在せず、先進的なものでした。自身を軍団長にまで引き上げた信長への感謝と敬意が込められたものでしたが、制定の一年後、本能寺で信長を討つことになりました。

其の四 神になった明智光秀公

「本能寺の変」から100年
以上も後、当時の福知山城
主・朽木種昌は、領民の願い
を受け、宇賀御靈大神を祀
る祠に明智光秀公の御靈を
合祀し、御靈神社を創建し
ました。光秀の善政を語り
継いできた領民たちは大いに喜び、光秀公のための「御靈会」は
にわかに盛大になりました。

福智山

丹波山地のやさしい風が吹きおろし、由良川の雄大な流れが貫く福知山。
何もなかった河原に新たな城と町を築いたのが、戦国武将・明智光秀でした。
光秀により「福智山」と名づけられたこのまちには、
今でも変わらないやさしい風と、領民に慕われた光秀の足跡が遺されています。

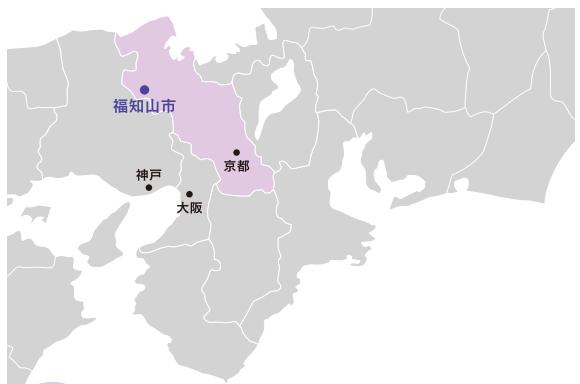


其の五 石垣から分かる明智光秀の人柄

福知山城天守台の石垣は、光秀が築城した当時の面影を伝えています。一見乱雑に見える積み方は「野面積み」と呼ばれ、自然石を巧みに組み合わせたものです。また石垣には、五輪塔や宝篋印塔などの石材が数多く使われており、これは、織田信長に関わる城に共通する特徴で、代用石と呼ばれています。おそらく近隣の寺院から集められたもので、その理由には諸説ありますが、この地の旧勢力の象徴であった寺院を破壊し、石垣に組み込むことで支配を示そうとしたものと考えられています。しかし、光秀は、石材を集めることで、その補償として代用になる石を配ったという伝承もあり、新たな統治者に対する民衆の抵抗を和らげるべく、心配りを忘れないかつたことがうかがわれます。



ACCESS



- 京都から 京都縦貫自動車道、
国道9号で約85km(約1時間45分)
- 大阪から 中国自動車道、舞鶴若狭自動車道で
福知山ICまで 約100km(約1時間30分)



- 京都から JR山陰本線で約1時間15分(特急)
- 大阪から JR福知山線で約1時間35分(特急)



- 大阪(なんば)から 約1時間40分(直通)
- 神戸(三ノ宮)から 約1時間30分(直通)

市街地図



観光のお問い合わせは 福知山観光案内所

〒620-0045
京都府福知山市駅前町439(福知山駅北口)

TEL 0773-22-2228
<http://www.dokkoise.com/>



(一社)福知山観光協会イメージキャラクター
光秀くんとひろこさん
©2000 尼子駿兵衛・尼子事務所

NHK大河ドラマ誘致推進協議会

 明智光秀・細川ガラシャ・細川幽斎・
細川忠興。これら4人は、激動の人生を
生きた父と娘、父と息子、そして夫婦
であり、その後の日本の歴史に大きな
影響を与えました。

ゆかりの地である京都府の9市町、
兵庫県の2市、福井県の1町では、行政
と民間団体が協働で、光秀・ガラシャ・幽斎・忠興の大河ドラマ
誘致に取り組んでいます。

ゆかりの地の自然・歴史文化の発信、観光振興、地域経済の
活性化のため、大河ドラマ実現に皆様の御支援と御協力をよ
ろしくお願いします。

<http://www.taiga-dorama.com/>

明智光秀ゆかりの地



黒井城跡

明智光秀と激しい戦いを繰り広げた赤井直正の居城。標高356m、周囲10kmに及ぶ山系全体が要塞となった戦国時代屈指の山城で、光秀の猛攻を何度も退け、苦しめました。本丸には石垣が残り、山頂からは春日地域を一望できます。国史跡に指定されています。

[所] 兵庫県丹波市春日町黒井



史跡田辺城跡

関ヶ原の戦いの前哨戦として、細川幽斎率いるわずか500人の軍勢が、石田三成方1万5千人の大軍に対し、約2ヵ月にわたり籠城戦を繰り広げました。援軍もなく落城寸前まで追い詰められましたが、歌道の達人であった幽斎の討死を憂慮した後陽成天皇の勅命により、城の包囲が解かれました。

[所] 京都府舞鶴市字南田辺



丹波亀山城址

して築城しました。本能寺の変では、光秀が丹波攻略の拠点と
ら出陣したと言われています。

[所] 京都府亀岡市荒塚町



勝竜寺城公園

天正6年(1578)に明智光秀の娘・玉(のちのガラシャ)が、細川幽斎の長男・忠興に奥入れをした城と伝わっています。後の山崎の戦いで、光秀はこの城に本陣を構えました。現在は公園となり、櫓や門のほか、資料館などが整備されています。

[所] 京都府長岡京市勝竜寺

発行 福知山市／(一社)福知山観光協会
福知山商工会議所／福知山市商工会